

HICAREカザフスタン派遣に伴う「フォローアップ・アンケート」の調査結果について

調査実施期間:

平成17年9月26日(月)～10月3日(月)

調査対象:

HICAREカザフスタン派遣団が訪問する、アスタナ、ウストカメノゴルスク、セミパラチンスクにある、5研究機関等の研修生

回収率:

57.9% (11人/19人)

集計結果:

1 HICARE研修全般についての印象

(1) 研修期間の長さ

区分	人数	割合(%)
A 適当	9	81.8
B 長い		
C 短い	2	18.2
計	11	100.0

(2) 研修全般についての印象

区分	人数	割合(%)
A 大変良かった	10	90.9
B 良かった	1	9.1
C あまり良くなかった		
D 悪かった		
計	11	100.0

(理由)

- ・ 日本や広島のことを知ることができた。
- ・ 特に甲状腺疾患について、新しい知識を得ることができた。
- ・ 新しい医師仲間と知り合うことができた。
- ・ 研修期間が短く、期間中に消化できなかったものもあった。しかしHICAREのおかげで研修を受けて多くのことを見聞きできたのは、非常に嬉しかった。
- ・ 非常に高いレベルで研修をアレンジしていただいた。
- ・ 細胞学研究室の活動や診断センターの設備、医療機関スタッフの皆さんや指導者の方々に良くしていただいたことに感銘を受けた。

(3) 研修の難易度

区分	人数	割合(%)
A 難しかった		
B 普通	11	100.0
C 易しかった		
計	11	100.0

(理由)

- ・ 外科医として研究所に勤務し、手術に立ち会わせてもらい、様々な病気の最新手術技術を見ることができた。
- ・ 多くの時間を実習に割いてもらった。
- ・ 私達がカザフスタンで学んできた診断基準と、日本の専門化の診断基準が必ずしも一致しないため、細胞診断基準で戸惑うことがあった。

(4) 広島での生活

区分	人数	割合(%)
A 大変良かった	10	90.9
B 良かった	1	9.1
C あまり良くなかった		
D 悪かった		
計	11	100.0

(理由)

- ・ 温かく接してくれる日本の医師達と知り合うことができた。
- ・ 町も美しく清潔で、2か月間でいろいろな興味深い場所を見学できた。
- ・ 研修機関からあまり離れていない場所に、個室の宿泊所を設けてもらったので、住居面での問題はなかった。
- ・ 広島の町も好きだし、私達にとっても良くしてくれた。
- ・ 町がとてもきれいだった。

2 HICARE研修後の医療活動の状況

(1) 現在の医療活動へのHICARE研修の貢献度

区分	人数	割合(%)
A 大変役立っている	7	63.6
B 役立っている	4	36.4
C あまり役立っていない		
D 役立っていない		
計	11	100.0

(理由)

- ・ 新しい技術を習得し、自分の仕事に導入できた。
- ・ 婦人病塗末標本の観察、腫瘍病の見られる診断用プレパラートの観察など、日本で学んだことは、私の日々の仕事に欠かせない存在となっている。
- ・ 現在では前癌または癌の診断がより容易になった。

(2) 研修で学んだことのうち、現在特に役立っていること

- ・ 研修で学んだ全ての理論、実習の知識を、自分の仕事に生かしている。
- ・ 腫瘍病理早期発見のための、パパニコラウ染色法による細胞診断法。
- ・ 穿刺吸引によって得られたプレパラートの観察。
- ・ 仕事の組織化の仕方。
- ・ 遺伝子学・疫学((財)放射線影響研究所)、被曝線量測定(広島大学原爆放射線医科学研究所)。
- ・ 予防検診の実施。
- ・ 血液疾病の診断と生化学分析を応用した検診の実施。
- ・ 腫瘍・癌の症例を大変多く学ぶことができたこと。
- ・ 胃や乳腺の検診方法。
- ・ 細胞学について学んだことが、仕事に役立っている。
- ・ 細胞診断に関する知識、パパニコラウ染色法。
- ・ 細胞形態診断に関する全ての知識。

(3) 研修で学んだことに関連して現在困っていることや、今後受けてみたいHICARE研修

- ・ 放射線治療を受けた患者の甲状腺疾患の研究。
- ・ HICARE研修終了の証明書は一定のカテゴリーで習得された知識を表すものであり、とても重要なものである。できれば、証明書は英語・ロシア語表記をしてほしい。英語だけではカザフスタンでは有効とされない場合があり、実際にそういったトラブルもあった。
- ・ 病理形態学の研修に興味があるが、HICAREにそういった研修プログラムがないのが残念だ。
- ・ 研修成果は、特に「リスクグループ」の特定など、実務面で非常に役立っている。
- ・ カザフスタンの専門家技能向上のためのプログラムを将来作成してほしい。
- ・ 放射線診断に関するプログラムに関心がある。
- ・ 血液学の知識向上。
- ・ 細胞形態学に関する全ての知識が有益で、日々の仕事に役立っている。
- ・ 形態学に関するプログラムに興味がある。

(4) HICAREからの情報提供

区分	人数	割合 (%)
A 必要である	9	81.8
B 内容による	2	18.2
C 必要ない		
計	11	100.0

(5) 提供を受けたい情報の内容

- ・ 甲状腺疾患、特に甲状腺外科に関する研修を継続したい。
- ・ 免疫組織化学法を含む、腫瘍病病理形態学研修コースに関する情報が欲しい。
- ・ 将来日本の専門家との共同研究ができるかどうかということについて情報提供をお願いしたい。
- ・ 最新放射線診断法について知りたい。
- ・ 日本の専門家と共同して、細胞遺伝研究を導入することができるかどうかということについて知りたい。
- ・ 放射線診断に関する情報について知りたい。
- ・ 細胞診断に関する情報について知りたい。
- ・ 臨床細胞学に関する情報について知りたい。
- ・ 形態学に関する全ての情報について知りたい。
- ・ 最新の情報を紙ベースでもらいたいが、難しいようであれば電子メールで送ってほしい。